身近にある日本書紀ゆかりの地をめぐってみませんか。

日本書紀めぐり旅 Vol.6

廣瀬大社

天武天皇ゆかりの古社 水神に願いをこめる砂かけ祭

「この地の沼から去る」――。崇神天皇の代、龍神からのご神託で一夜にして沼地は陸地となり、橘がたくさん生えたことが天皇の知るところとなって社が創建されたと社伝にあります。

社が鎮座するのは、初瀬川、曽我川など、大和盆地を流れる多くの川が合流するところ。天武天皇4年（675年）、風神を龍田大社に、また、水神である大忌神を「広瀬の河曲に祭らしむ」と『日本書紀』には記され、以後天武天皇、持統天皇の代に30回以上にわたり両社を祀ったとされています。この地が風水を治める特別な地であったことがうかがえます。

古代から変わらぬ祝詞にも、水を司る廣瀬の神様は五穀豊穣を守る「御膳神」とあり、家々を守り、万物の成長を助ける衣食住の神様でもあるとして人々の崇敬を集めてきました。

天武天皇の頃から始まったとされる「大忌祭」は、今も御田植祭「砂かけ祭」として伝わります。田植えの所作をする田人と参拝者が、境内の神の砂を雨に見立てて激しくかけ合うもので、「雨がたっぷり降りますように」「田植えがうまくいきますように」と願います。雨の少ない奈良盆地ならではのこの祭りは、今年も2月11日に行われます。

龍田大社

天武天皇の代から廣瀬大社と一対で祀られた、風神を祀る龍田大社（三郷町）。

橘の実

10月～11月頃、境内の橘の木に多くの実がつきます。開花は5月頃。

「廣瀬大社」

所 河合町川合99

問 廣瀬大社社務所
☎0745-56-2065

近鉄田原本線池部駅から北東へ約2.5kmまたはJR大和路線法隆寺駅から南東へ約3km。

歩く・なら推奨ルートマップは
龍田大社と廣瀬神社をつなぐ道 検索

砂かけ祭について、詳しくはP18で。

「川が集まる川洲に建つ」伝承どおり、一の鳥居からの参道は下り坂。境内は深い砂地で橘が古社を彩ります。

「なら記紀・万葉名所図会～日本書紀ことはじめ編」（1月下旬発行） 制作：奈良県

『日本書紀』完成1300年にあたる2020年（平成32年）に向けて、「なら記紀・万葉名所図会」の新編「日本書紀ことはじめ編」を発行しました。『古事記』と『日本書紀』の違い、『日本書紀』のエピソードやゆかり地の写真など、『日本書紀』に親しむことができる冊子です。

『日本書紀』に触れて、奈良県の魅力を再発見してみませんか。

無料配布 【配布場所】県ならの魅力創造課
県内各地の観光案内所など

郵送希望の場合は、封筒の宛先面に「ことはじめ編 希望」と明記し、送り先を記載した返信用封筒（A4サイズが入る封筒に205円切手を貼付）を同封のうえ下記へ。

問 県ならの魅力創造課 ☎0742-27-8975
〒630-8501
奈良市登大路町30番地

なら記紀・万葉 検索